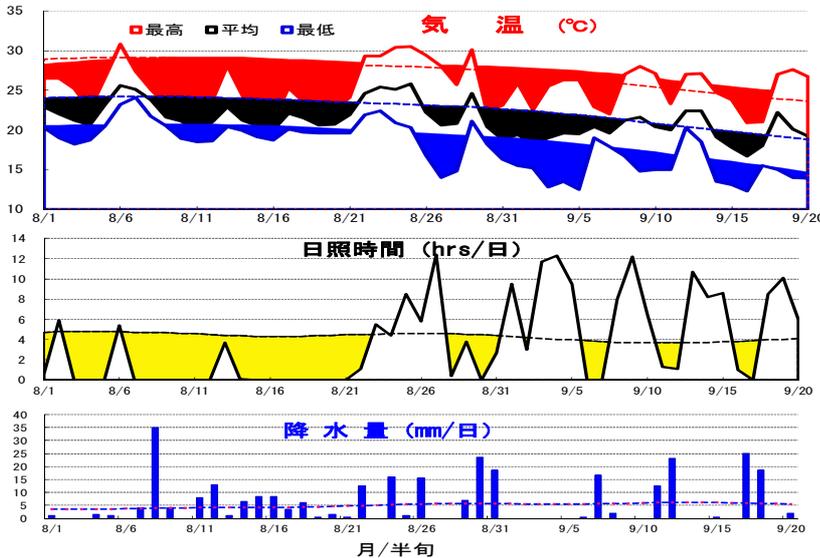


## ～台風や降雨等の影響で刈遅れに注意・適期刈取を！！～

### 1 出穂後の気象経過 (古川：アマダス)



	平均気温 (°C)		降水量の合計 (mm)		日照時間 (時間)	
		平年差		平年比		平年比
8月上旬	23.0	-1.6	58.5	116%	11.1	21%
中旬	21.4	-2.8	82.0	186%	2.2	5%
下旬	24.3	0.5	78.5	109%	43.8	91%
8月	23.0	-1.2	219.0	131%	57.1	40%
9月上旬	21.4	-1.3	28.0	58%	68.4	164%
9月11～18日	21.9	1.1	70.5	127%	36.5	119%

- ・ 出穂後 8月22日から天候回復
- ・ 9月上旬やや低温傾向
- ・ 9月上旬日照時間が平年比 164%
- ・ 9月上旬の降水量は平年比 58%
- ・ 9月17日に台風18号通過

### 2 刈取状況 [9月19日現在]

地区名	水稻作付見込面積 (ha)	9月19日現在刈取状況	
		刈取面積 (ha)	進行率 (%)
大河原	6,752	217	3.2
仙台	12,180	127	1.0
大崎	18,213	82	0.5
栗原	8,943	33	0.4
登米	9,835	20	0.2
石巻	7,452	69	0.9
気仙沼	910	1	0.1
<b>県計</b>	<b>64,285</b>	<b>549</b>	<b>0.9</b>

- ・ 水稻の刈取面積は、549haであり、県全体の進行率は 0.9%となっている。
- ・ 台風18号の影響もあり、刈取始期 (水稻作付面積の5%) に達していない。
- ・ 出穂後 45日の沈下粒数歩合も平年と平年に比較して 5%程低いと思われる。
- ・ 出穂後 25日の不稔率調査では 5.3%で平年とほぼ同じである。(山間部が 6%程度で平均よりやや高い。)
- ・ 晩生品種や直播圃場は、移植より遅れており、今後の好天継続が登熟の鍵となる。

### 3 今後の管理

#### (1) 適期刈取

- ・ 平坦部のひとめぼれ、ササニシキ (8月1日出穂) は、概ね刈取適期の目安に達している。
- ・ 出穂後 (8月1日) の平均気温の積算は、9月20日現在古川で 1,100°C程度となっている。
- ・ 本年は、圃場により登熟の進展が大きく異なることから、籾の熟色、籾水分等を考慮して刈取適期を判断する。
- ・ 刈取適期に達している圃場では、速やかに刈り取り、刈遅れによる品質低下を防ぐ。
- ・ 台風18号により倒伏した圃場では他の稲とは別に「刈分け」を行う。

## (2) 乾燥調製

- ・倒伏した稲や未熟粒の多い稲を機械乾燥する場合、水分測定と丁寧な乾燥を行うことで水分ムラや胴割米の発生を抑える。
- ・乾燥後の籾水分は、室温(常温)まで下がってから測定し、仕上がり玄米水分を15%とする。
- ・籾水分が16%になったら乾燥を停止し、籾摺前に水分を測定し、規定水分に仕上げる。
- ・高水分籾の乾燥は二段乾燥とし、籾水分が20%以下になるまで乾燥した後、一時停止する。
- ・肌ずれ防止のため、籾の温度が室温まで下がってから籾摺作業を行う。

## 【参考】

### (1) 「低温に関する異常天候早期警戒情報(東北地方)」平成29年9月21日発表

- ・警戒期間 9月28日頃からの約1週間
- ・対象地域 東北地方
- ・警戒事項 かなりの低温(7日平均地域平年差 $-1.6^{\circ}\text{C}$ 以下)
- ・確率 30%以上
- ・内容 対象期間(9月26日~10月5日)で東北地方では、9月28日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり低くなる確率が30%以上と見込まれる。

### (2) 今後の気象予報

#### 【1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)】

【気温】	東北地方	40	40	20
【降水量】	東北太平洋側	30	40	30
【日照時間】	東北太平洋側	20	40	40

#### ◆週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目	東北太平洋側	20	30	50
2週目	東北太平洋側	70	20	10
3~4週目	東北地方	30	40	30

■ 低,少 ■ 並 ■ 高,多